

## 「ヤコブの結婚」

2021年03月26日

ところが、朝になってみると、それはレアであった。ヤコブはラバンに言った。「あなたは何ということをしたのですか。私はあなたのところで働いたのは、ラケルのためではありませんか。なぜ私をだましたのですか。」するとラバンは答えた。「私たちのところでは、妹を姉より先に嫁がせるようなことはしないのだ。とにかく、この週は一緒に過ごさない。さらにもう七年間私のところで働くということで、あの娘もあなたに嫁がせよう。」(創世記 29 章 25 節～27 節)

ヤコブは、兄エサウの殺意から逃れ、母リベカの故郷ハランにきた。井戸辺で、母の兄ラバンの娘ラケルに運命的な出会いをした。ラバンは「あなたは本当に私の骨肉だ」と言って、歓迎してくれた。ヤコブは、羊を飼うラバンを手伝うことになった。彼は家畜を飼育していたので、羊の飼い方がうまく、並外れた能力を持っていた。お陰で、ラバンの羊は増えていった。ラバンは、「あなたは親戚だからといって、ただで働くことはない。どんな報酬がいいのか言ってみなさい」と言った、彼は計算高い男で、ヤコブに長期間、滞在してもらえば、裕福になれると思って、この申し出をした。ラバンには二人の娘がいて、姉はレアと言い、優しい目をしていて、妹はラケルと言い、姿形が美しかった。ヤコブは井戸辺で感激の出会いをしたラケルを愛していたので、「下の娘ラケルのためでしたら、私は七年あなたのところで働きます」と答えた。ラバンは、「あの娘をほかの人に嫁がせるより、あなたに嫁がせるほうがよい。私のところで暮らさない」と答えた。ヤコブは愛するラケルと結婚することを条件にラバンの羊飼いをすることになった。ラバンは、ヤコブをただで使えと、ほくそ笑んだ。ヤコブはラケルを愛していたので、7年は数日のように思われた。熱愛していたのである。

約束の7年が過ぎ、ヤコブはラバンに、「約束の期日になりましたので、私の妻をください。彼女のところに入りたいのです」と申し出た。ラバンは土地の人たちを集めて祝宴を催した。夕暮れに、ラバンは娘レアをヤコブの所に連れて行ったので、ヤコブは彼女のところに入った。この時、レアの召し使いとしてジルパを付けた。ヤコブは愛するラケルと結婚したと思ったが、朝になってみると、姉のレアとであった。ヤコブはラバンに、「あなたは何ということをしたのですか。私があなただけのところで働いたのは、ラケルのためではありませんか。なぜ私を騙したのですか」と問い質した。ラバンは涼しい顔をして、「私たちのところでは、妹を姉より先に嫁がせるようなことはしないのだ。とにかく、この週は一緒に過ごさない。さらにもう七年間私のところで働くということで、あの娘も嫁がせよう」と答えた。ヤコブは言われた通り、レアとその週を過ごし、その後、ラケルを妻とすることができた。ラバンは、働き者のヤコブを繋ぎ留めたいがために、娘であっても二人を利用した訳である。ヤコブはラケルを妻にするために十四年間、ラバンの所で働くことになった。ラケルには、ビルハという娘を召し使いとして付けた。

ヤコブはラケルとの待望の初夜を迎えた訳であるが、姉のレアだと見抜けなかったのか。夜とはいえ、見抜けなはずがない。ずる賢いヤコブがレアと承知の上で、彼女のところに入ったと理解する人もいる。しかし、レアは顔にベールをかけていて、ヤコブは恋い焦がれたラケルへの一途な思いで無我夢中となり、確認などしなかったのではないか。父の道具にされたレアとラケルは夫ヤコブの愛を得たいと壮絶な争いを繰り広げていく。